

## 第3回 宇部市多文化共生推進ビジョン策定委員会 会議録

### ■日時・場所

日時： 令和5年12月27日（水曜日） 14:00～15:45

場所： 宇部市役所本庁 5階第1委員会室

### ■次第

1. 開会
2. 議事
  - (1) 振返り
  - (2) 主な検討内容
  - (3) ビジョン構成
  - (4) その他
3. 閉会

### ■資料

資料： 第2回宇部市多文化共生推進ビジョン策定委員会における指摘事項及びその対応について

資料： 宇部市多文化共生推進ビジョン(素案)

### ■会議風景



■参加者

\* 敬称略・順不同

属性	氏名	所属	出席
委員	ソーレンセン・アリエル・キース	山口大学国際総合科学部准教授	○
委員	川崎 千枝見	山口大学留学生センター 助教	○
委員	小寺 紀美代	日本語クラブ宇部 代表	○
委員	安光 善美	宇部公共職業安定所 統括職業指導官	○
委員	西山 一夫	ユー・アイ・ケイ協同組合 顧問	○
委員	石崎 輝正	社会福祉法人 宇部市社会福祉協議会 地域福祉課 課長	欠
委員	田中 辰夫	宇部市自治会連合会 川上地区 会長	欠
委員	田中 沙織	公益財団法人 山口県国際交流協会 主任	○
委員	原 浩一郎	宇部市小学校長会 会長	○
委員長	富田 尚彦	宇部市観光スポーツ文化部 部長	○
アドバイザー	松田 恭明	山口県観光スポーツ文化部国際課 課長	○
オブザーバー	品川 大和	山口県宇部警察署生活安全課 課長	○
事務局	青山 佳代	宇部市観光スポーツ部 次長	○
事務局	上田 優作	宇部市観光スポーツ部観光交流課 課長	○
事務局	三宅 敦子	宇部市観光スポーツ部観光交流課 副課長	○
事務局	財前 彰文	宇部市観光スポーツ部観光交流課 係長	○
事務局	小野 健次郎	宇部市観光スポーツ部観光交流課	○
事務局	金子 茉由	宇部市観光スポーツ部観光交流課	○
事務局	八木 周吾	ランドブレイン株式会社 (コンサル)	○
事務局	田添 雄大	ランドブレイン株式会社 (コンサル)	○

## ■記録

### 1. 開会

### 2. 議事

#### (1) 振返り

－ 事務局より説明（記録省略） －

富田委員長 | ただ今の事務局からの説明で、御質問ありますか。  
ないようですので、次の次第に入ります。

#### (2) 主な検討内容 (3) ビジョン構成

－ 事務局より説明（記録省略） －

富田委員長 | 19 ページまでの説明について、御質問ありますか。  
なければ私から質問があります。国・県の動向が説明の中にありましたが、県の動向はさらに加えても良いのではないのでしょうか。

事務局 | 県から具体的に指針が示されているので、それを踏まえ、この部分は厚くしていこうと思います。

富田委員長 | それと併せて、ポンチ絵のような概念図があるのであれば、入れておくと分かりやすいと思います。

事務局 | 県は先日概要という形で指針を示しておりますので、その辺りから分かりやすいイメージ図があれば取ろうと思います。

小寺委員 | 宇部市の地区別人口で外国人の割合が高い地域は、大学関係以外では特定技能や技能実習生を受け入れている企業がかなり多いからだと思います。一般の方はなぜ外国人の割合が高いのかが分からないと思うので、補足説明があったほうが良いのではないのでしょうか。私は川上地区に住んでおり、特定技能を受け入れている企業があるので高いのだと思うのですが、説明が必要ではないのでしょうか。

事務局 | 検討させていただきます。アンケートをさせていただいたときにクロス集計などでデータを取っているので、その辺りから根拠を示して書けるのであれば記載しますので、検討させていただきます。

田中委員 | 16-17 ページの在留資格別の人口について、特別永住者や技能実習、特定技能等をお示しされていると思うのですが、定住者の方や長期滞在の方も増えているので、ここ数年の動きを比較するという意味でも、他の在留資格者の方(永住者や家族滞在など)のグラフも入れると良いかなと思いました。

事務局 | 検討させていただきます。

富田委員長 | 次に、20-35 ページまでの市の行政サービスとアンケートのヒアリング調査結果と分野別の現状と課題の説明について、御質問ありますか。

西山委員	20 ページの部分、令和 5 年の相談件数を教えて下さい。どんな相談があっ ちんと解決ができたかどうかを教えてください。しっかり機能しているの かどうかを教えてください。
事務局	11 月末まで 27 件の相談がありました。
西山委員	宇部だけしかやってないと思うので、先進的な取組です。今のシステムのやり方 で機能するのかどうか、宇部で上手くいっているのであれば他の自治体でも運用で きます。上手くいかないのであれば改善をしなければなりません。作るだけで結果 的に上手くいかなかったというのであれば、あまり意味はないです。全く役に立た ないとは思っていませんが、難しいというケースも多岐にわたると思います。解決 に至るのかどうか分かりません。
松田委員	アンケートを見ても、窓口の存在を知らない人も多いので、その周知が大切だ と思います。
事務局	今年はまだ集計していませんが、昨年の令和 4 年までのデータですが、全体 としては年々増えています。内容としては、教育分野の子どもに関しての相談が一 番多いです。いただいた相談が解決まで至ったかどうかは把握できていません。 様々なケースがあるので、何をもって解決とするかは難しいと思います。
西山委員	雇用の件で当方へ相談がありました。特定技能は給料が安いという相談があり ました。制度的には変わろうと思えば変われますが、仕事の斡旋は当方ではできな いんです。そういったケースの相談がありました。色々なケースが出てくると思うの で、大変だと思います。
富田委員長	相談があったら繋いで終わりでしょうか。フィードバックなども取っていないの でしょうか。
事務局	そうです。
富田委員長	今後は、繋いで終わりにしないようにする必要があります。
富田委員長	他にありますか。他にないようでしたら、私から書き方について要望があります。 アンケートは分野別に分けたほうが見やすいので、分けて整理して欲しいです。
川崎委員	私も重複しますが、ここに出たものが後のページとどう関連しているのかわかり 辛いので、読むのに労力がかかります。例えば、5 つの分野があるのであれば見比 べる事ができるよう色分けをするなどしていただきたいです。初めて見る方にとっ てはかなりのボリュームで情報量が多いので、次のページで新たに文面を読み直す 必要がないように、整理して欲しいです。例えば、教育のことや福祉のことなど、 人によって関心がある分野は様々なので、そういった分野ごとに拾い読みができる よう、読みやすく構成すると、活用していただけたらと思います。削り過ぎると分か らなくなるので、分野ごとに構成し見せ方を工夫して、必要な項目をすぐにピック アップできるよう考えていただきたいです。
富田委員長	課題とリンクするように、見せ方を考えて下さい。
事務局	承知しました。

川崎委員	<p>情報発信ツールの部分でフェイスブックが挙げられていますが、宇部市で実際に運用されているものということでしょうか。外国人住民の方がどういう SNS を活用されているのかを調査された上でフェイスブックになっているのでしょうか。日本人の大学生は、フェイスブックは聞いたことはあるが使っていないという方がほとんどです。外国人や日本語学校ではフェイスブックは今でも活用されていますが、情報を受け取って欲しい側がフェイスブックを使っていないということになると届きようがないです。誰に何を伝えるのかというときに、どのツールを使うのか、需要に合わせてツールを変えなければならないということも、検討いただいた方が良いと思います。同じ団体であっても、日本人の若者に対してはインスタグラムを使い、大人や外国人向けにはフェイスブックというような運用の仕方が迫られていると思いますので、対象者ごとの SNS ツールの需要の確認をお願いします。</p>
富田委員長	<p>フェイスブックについては、登録されている方は外国の方が多いです。ただ先ほど言われたように、一方では国籍によっては使うツールが違うので、施策の中で拡充をしていきたいと思います。</p>
キース委員	<p>外国人学生の就職について、就職支援の方法はどうやっていますか。</p>
富田委員長	<p>今時点ではやっていないと思うので、今後の課題・施策となると思います。</p>
事務局	<p>先ほどお話があったように、教育関係の相談が多く留学生のケアができていないので、今後考えていきたいと思います。</p>
西山委員	<p>就職支援は、大学でやっているのでしょうか。</p>
川崎委員	<p>西京銀行・県・大学で地元企業とのマッチングの場を持っています。</p>
西山委員	<p>留学生の就職は大学が中心となって進めていかないといけないのではないのでしょうか。行政はできないと思います。求人情報は職業安定所が持っていると思うので、職業安定所で職探しをしなければならないのではないのでしょうか。マッチングしない理由は給料の面が大きいと思います。</p>
安光委員	<p>ハローワークで新卒・学卒対応のサポーターはしていますが、外国人に特化した人はいないです。学卒対応は、中卒や高卒をメインに支援していますので、それ以上の学位の学生方へは基本的には支援をしていないというのが現実です。学生の方は、自分でエントリーシートを書いて就活されています。頑張って就活をしたが4月になっても決まらなかったという人が職業安定所へ来所されるという現状です。どこまで支援するかというのが難しいというのが現状です。</p>
西山委員	<p>県内就職を目指すというのが県の方向性としてあるので、できればそうして欲しいのですが、職種の問題や給料の問題でマッチングしないという実情です。</p>
川崎委員	<p>参加者も多くないので、大学内での周知活動が大事になってくると思います。他県の例ですが、新たに外国人労働者を雇用し始めたいという地元企業を県でバックアップする制度を作り、同時に企業のバックアップと留学生への周知活動を両輪でされている県があります。そうすると、受入側の企業数も増え地元企業数も増えてくるということで、県内に就職したい留学生を対象とした取組が少しずつ増え、受入企業へのバスツアーをしたり、企業側に制度的な説明やバックアップをしたりと</p>

	いった取組を行っている県があります。
西山委員	商工会議所などと話し宇部市の企業の要望を吸い上げ、県内各所に情報を流すということはできると思います。宇部市内の企業が、外国人のハイレベルな人を雇用するということはそんなに多くはないと思います。
富田委員長	大学と山口県が連携して、交流会や職場体験などを考えていく必要があります。宇部市でやっている仕事を見てもらった方が良いと思います。
西山委員	インターンシップなど、情報が入ればそういう情報を繋いでいくということはできると思います。
富田委員長	その辺りまでかなと思っています。更に日本語を学びたいという方もいますし、まだその辺りは整理できていないので、今後整理していきたいと思っています。事務局いかがでしょうか。
事務局	雇用の部分は色々な関わりがないと進んでいけないと思いますし、市のビジョンの中でどれだけ書けるか検討していきたいと思っています。
西山委員	市が単独でできる訳がないと思いますので、大学・県・企業・会議所・経営者協会などと連携し、情報提供をしていくしかないと思います。市内の中小企業も、欲しがってはいるけれども、来てくれないと言っています。海外から直接技能者を紹介して欲しいという話があり、そうやって来た人は大学を出ているのですが、就業する上で企業が希望する能力が足りない方が来るというケースが多いです。そういう意味では、山口大学で学んだ外国人はレベルがある程度わかるので、企業側も人材として欲しいですが、外国人学生側と企業側とでマッチングができていないというのが現状です。宇部市にとって今後大事なものは、そういう人たちも宇部市で就職できるようにするのが大事だと思います。
富田委員長	西山委員が言われたように、県・大学・企業と連携してやっていく方向で考えなければ難しいと思いますので、しっかりと整理をして下さい。
富田委員長	次に、36-52 ページまでの内容について、御質問ありますか。
小寺委員	文言についての質問です。基本理念の部分ですが、「限らず」ではなく「関わらず」ではないでしょうか。ありがたい姿の部分ですが、「いつまでも」ではなくて「いつも」「いつでも」ではないでしょうか。
事務局	言葉については精査します。
原委員	施策について、学校教育の観点から見ると、普段の子どもたちや保護者の方々の様子を見てみると、外国人の児童・生徒に対する支援は比較的良く見えます。本校に国際教室の指導をしている県雇用の非常勤講師がいますが、本校の子どもに対し日本語指導をしていたのですが、他校にも指導が必要な子がいるということで、学校教育課の方が間に入り、他校の子どもへも日本語指導に行くことになりました。子どもへの支援は比較的良く見えます。一方で、私たちから良く見えないのは家庭教育に対する支援が見え辛い部分があります。たくさんありますが、具体的な一例を挙げると、学校から「学校だより」「保健だより」など様々な案内文を出すのですが、読めない方がいます。また、専門的な知識が必要な場合もあり、理解ができ

ない方がいます。そういった家庭教育支援ということが、この施策の中に入っているのかと思い読んでいたのですが、4（11）の中に「悩みを抱える子どもの相談体制の構築」というものがありますが、「悩みを抱える保護者」も加えても良いのではないかと思います。そういう視点があるなど、「2 誰もが安心して生活することができる地域づくり」の「(6) 外国人が利用しやすい生活サービスの充実」の中に、家庭教育を受ける悩みを相談できるような内容があるなど、家庭教育支援があると良いなと思いました。

西山委員

そのようなケースはたくさんあると思います。現実には起きている話は何でしょうか。例えば、私の所で働いて11年目になるベトナム人の職員の話ですが、子どもが学校遠足に300円分のお菓子を持ってきて良いと学校のプリントに書いてあったそうです。皆がお菓子を持って来ている中でその子どもだけが違ったそうです。11年日本に住んでいてもそういった細かい部分で読解の齟齬が起こるので、そういったケースはこれからもたくさん出てくると思います。学校の中のことはある程度は対応できますが、家庭の中はどんどん置いていかれています。家庭のフォローアップはどのような体制を作ると良いのでしょうか。日本語を勉強するようになって、細かいニュアンスの部分まで理解するのは中々難しいのではないのでしょうか。各家庭のフォローはどうやったらできるのでしょうか。今後は、日本語を教えるシステムの中に学校教育で教える部分と家庭の部分も組み込まなければならないのではないのでしょうか。その部分を、学校がするのか行政がするのか分かりませんが、日本全国で起きている話だと思います。どうやったらそれがクリアできるのでしょうか。やったら良いなということは書けますが、具体的にはどうするのかというアイデアは現場で出していただかなければ、何が問題になっているのか中々分からないと思います。

原委員

相談窓口がワンストップであれば良いなと思います。例えば、その窓口へ外国籍の子どもの保護者の方が電話をし、そこの窓口の方はどこに繋いだら良いのかということ判断してもらい、学校に繋がれば良いと思えば学校へ繋ぎ、窓口の方へ説明してもらい、その内容を外国籍の方が理解できる言語表現で窓口の方が伝えるといった仕組みであれば良いのかなと思います。

西山委員

市に相談窓口があるので、そこを使うと良いのではないのでしょうか。

原委員

市にあるのを初めて知りました。私共の所へは周知が無いので知りませんでした。

西山委員

たくさん窓口を作っても仕方がないので、ワンストップとして作っていかねばならないと思います。相談窓口は非常に大切なのですが、非常に大変でもあります。ありとあらゆる話が来たときに、少なくとも窓口の速度では対応できない話も出てくるのではないかという気もします。

原委員

現実としてはどのようにしているかという点、本校の場合は県雇用の非常勤講師がいるので、本来はその方の仕事ではないのですが、学級だよりや学校だよりなどの学校から出す文書であれば、英訳をして家庭に持ち帰らせています。本来はその方がする仕事ではなく、サービスでしていただいています。ですが、本校にはそう

	<p>いう非常勤講師がいるのでそういったサービスをしていますが、他校には本校のような非常勤講師がないので、そういう所はどうしたら良いのかというのが分からないわけです。</p>
西山委員	<p>なぜ原委員の所にはそういう先生がいるのでしょうか。</p>
小寺委員	<p>上宇部小学校なので、山口大学の留学生の子どもたちが多いのです。</p>
原委員	<p>本校には国際教室があるので、国際教室で日本語指導をする教員を県へ依頼し、県から派遣されて来ているという流れです。</p>
小寺委員	<p>国際教育に入られている先生が物凄く勉強をされているのですが、元々は英語の先生なのです。日本語教育に関してはゼロからそちらの学校へ入られたそうで、教え方を教えて欲しいと私の所のクラスに見学に来られました。毎回物凄くノートを取られています。私が、子どもたちに教える日本語とはやり方が違うと思いますと言ったのですが、そういった学ぶ場が無いということでした。上宇部の保護者の方は留学生で英語ができるので、学校だよりを英訳するという事で済んでいます。市内全体を考えると英訳しても分からないという保護者もこれから増えてくると思います。</p>
西山委員	<p>以前話しましたが、特定技能2号の方は家族滞在が許されるようになったので、今後その方々が増え始めると、日本語も英語も分からない、できないという状況になるので、そういった御両親が増え始めることとなります。当初はそういう心配していたのですが、特定技能2号の試験は物凄く難しいので、そんなには増えないだろうと今は思っています。ですが、3年先や5年先に、人手不足になり国が制度を緩めると途端に増えるので、そうならないために今のうちに体制を作っておく必要があるのではないのでしょうか。何をどう作ると良いのかということが問題ではあるのですが、まずは人がいないです。日本語教育は今後、凄く重大になってくると思います。現在、国が制度改正をやっております。技能実習と特定技能の仕組みを育成技能と特定技能に変えて、実習生ではなく労働者・ワーカーとして入国させるという制度に変更するよう、今度の通常国会に提出されます。以前とどう違うかという、言葉のことを非常にシビアに言われています。今までは何年在住しても「N-1を取得しなければならない」などということはありませんでした。制度が変更になると、入国までにはN-5を取得しておくか入国後1年間でN-5を取得しなければならず、取得にも色々な条件が付きます。入国後3年経過するとN-4の取得、特定技能へ移行する場合はN-3の取得、語学試験のステップアップをしなければ日本に定住できないというシステムに国が変更します。国の多文化共生も、そういった方向に行くと言われています。大事なことであるし良いことでもあるのでやって欲しいと思っていますが、その体制が全くないのです。試験を取りなさいと言いながら、ではどこまで教えるのかとなったときに、「認定の日本語教育機関などで勉強しなさい」と書いてありますが、認定の日本語教育機関はどこにあるのかという話です。山口県内には、下関・萩・山口2箇所の計4か所です。そこの受入れは留学生だけです。そこへ追加でお願いできるかと話をすると、先生の数がないので受付できませんということになります。単発で来てもお金がかかるので、できませんと言われます。勉強する場が無ければ試験には通らないです。今までは資</p>



格は無くても問題が無く、資格を取る人はこちらから言わなくても自主的に勉強して取るのですが、取得しなければならなくなると強制的に勉強させなければならなくなります。取るとなると日本語教師の資格を持っている人になる訳ですが、今度はそれが国家資格になります。ですが、日本語教師の資格を持っている人がどこにいるのか全く分かりません。日本語教師の資格を取得するためには、半年間で50万円から60万円のお金がかかります。取得はできますが、高額な金額で半年もかけて取得したとして、それが職業として成り立つシステムがあるのであれば日本語教師の資格を取る人が増えると思います。ボランティアでやるとなると誰が資格を取るかという話です。そうすると、体制はできておらず先生はいないが勉強はしなければならないという状態になります。ですので、是非とも日本語の教育システムを作っていただきたいです。ただ喋るためだけの交流のための日本語教育ではなく、試験に合格するための日本語教育をどうやって教えるのが課題となります。付帯する家族には原委員が言われたような教育の中でやるとしても、それが全域でできるのかというと難しいです。日本語教育の早急な体制作りをしなければ手遅れになると心配しています。私の思いとしては、市として市内に認定の日本語学校を自転車で通える範囲内で作って欲しいです。そうしなければ対応できないような状態に国がしているのにも関わらず、全く体制が追い付いていないです。語学学習について行けなくなるとトラブルも出てきます。山口県は賃金も低ければ日本語学習の体制ができていないとなると、候補として選ばれない県の筆頭になる可能性は十分にあると思っています。現在、東京は1,100円で山口は950円の状態で給料面では東京に比べると負けています。同日に東京と山口で面接があるとすると、山口県を選ぶ外国人はいないと思います。今どきは試験を受けて合格しても、日本へ来るのを取りやめて他国を選ぶ人がいるのが実情です。これだけ日本の国全体のレベルが下がっている状態で、さらに山口県の給料は高くありません。給料で勝てなければ、他のことで勝たなければならないでしょう。「山口県に来れば日本語がしっかりと勉強ができる」となれば、来るのではないのでしょうか。そういったインセンティブがなければ、山口県には来ないと思われそうです。来なければ良いとすれば、新聞に載っていましたが山口県は人口減少で2050年頃には80万人程度になります。大変なのは分かりますが、他県や他市町村に負けられないような日本語教育システムを早急に構築して欲しいです。そうしなければ、勝ち残っていけないと思います。向こうが選ぶ時代なのに、何もせずに山口県や宇部市に来てくれると思っていたら大間違いです。今後は3年ではなく1年で他県に動けるようになるので、定着しないシステムになります。ともすれば、山口県は給料は安いですが日本語の教育システムがしっかりしているので3年5年10年と定住できるとなれば、永続的に山口県に残ってくれるかもしれないと思っています。大変なのは良く分かっていますが、色々なことを踏まえ日本語教育システムを記載して欲しいしやって欲しいです。

富田委員長

アンケート調査でも日本語を勉強したいという方がかなり多くいたので、日本語教育システムはしっかりと構築していく必要があると思います。事務局の方へ質問ですが、今言われた日本語教育を記入すると、「Ⅲ施策1 相互尊重のコミュニケーションによる地域づくり」か「4 子どもたちがのびのびと学び活躍できる地域づくり」に追記となりますか。

事務局	検討します。
西山委員	子どもだけではなく、原委員が言われたように家庭から作っていかなければいけないと思います。日本語を勉強していけば、次のステップとして地域とのコミュニケーションも取ることができて、ごみ出しの問題なども意思疎通が図れて解決できるわけです。言葉ができないので出だしの部分でつまづいているわけです。最初の取っ掛かりの部分で日本語がしっかり学べる環境を作っておかなければ、日本語を勉強するように言っても中々できないのです。出だしの部分をしっかりと作っていかなければ勝ち残ってはいけません。
富田委員長	御意見は事務局にしっかりと伝わったと思います。書き留められる範囲で書いて下さい。
西山委員	43 ページの外国人が利用しやすい生活サービスですが、病院や医師会や歯科医師会へは確認しているのでしょうか。
事務局	具体的に医師会や歯科医師会などに確認しているわけではないです。一般的な部分の話です。具体的な部分については骨格を決めた後に各部局や関係者と詰めた話をした上で、実際に実現可能なのか話を聞いて整理をして落とし込みをしていきたいと思っています。
西山委員	翻訳アプリなどがあるので、ある程度は大丈夫なのかもしれませんが、不安が残ります。
田中委員	西山委員が先ほど言われた 43 ページの「医療機関受診時の翻訳アプリや通訳ボランティアの活用」ですが、医療機関を受診する際に通訳ボランティアが同行するという意味であれば、医療通訳は非常に高度な内容になるので、現実的に制度設計が可能なのかはよく検証された方が良いのではないかと思います。守秘義務を守ったり、医療通訳の技術を学ぶ研修会や派遣制度など、医療ボランティアをするためにはたくさんの準備が必要ですので、十分な検討が必要です。
西山委員	国際交流協会にはそういった人はいるのでしょうか。
田中委員	国際交流協会では、医療機関から依頼があった際には通訳翻訳サポーターを派遣することはあるのですが、登録者の中でもこの方であればできるという人しか活用していないので、非常に難しいです。
小寺委員	他県の事例を見たことがあります。定期的に勉強会を開くなど医療通訳は非常に難しいように感じました。
川崎委員	電話を使った医療通訳のサービスを提供している会社もあり、そういった所であればプロフェッショナルと接続ができます。自治体が契約することになるとは思います。都度契約とはならないと思いますのでコストはかかります。医療通訳は命に関わることなので、単なる検診だと思っていたら凄く重大な病気があったということがあり得えます。
田中委員	41 ページの「(1) 生活のために必要な日本語教育の充実」の部分ですが、既に日本語クラブに業務委託されていることなので、上と併せて「機会を充実させます」という文言の方が良いのではないかと思います。続いて 44 ページの「(8) 外国

人住民が働きやすい就労環境の整備」の部分で「主な取組：外国人の就職・起業支援、留学生の就職活動支援」とありますが、これから働く方の支援ももちろん大事なのですが、現在就労されている労働者の方に対する取組や育成や就労環境の確保といった内容も入れてはどうかと思います。これは総務省の多文化共生プランにも同じ文言があります。昨年、技能実習生がいる事業所に対し、山口労働局が立ち入り検査を行ったのですが、7割以上が労働基準関係の法令違反がありました。給料未払いや年次有給休暇を取得させていないなどです。外国人技能実習生を適正に受け入れ、生活のサポートをしっかりとされている事業所も多いのですが、その一方でそういった法令違反の企業も多いので、技能実習生で来た方が特定技能で定住するなど、これからも宇部で働きたいと思われるためには、外国人の方を雇用する企業に向けた啓発などが非常に大切だと思います。外国人の方が単なる労働力と捉えられるのではなく、長く安心して生活しやりがいをもって働くことができる環境整備が非常に重要ではないかと思いました。外国人の方を受入れする企業が、こういった生活のサポートをしようとするのは市でしていけると思うので、その周知はやっていただきたいと思います。また、指針ができたときに概要版を作られると思いますが、予算との兼ね合いもあるとは思いますが、幾つかの言語で作成する予定はありますか。

事務局 今映しているスライドをベースに概要版を作っていこうと考えています。イメージで伝えるのは大事だと思っていますが、多言語での作成は検討させて下さい。

田中委員 予算があれば、外国人に対して宇部市は皆さんがもっと住みやすいようにこういった取組をしていますということを、多言語でしっかりと情報発信していただきたいと思います。

事務局 やさしい日本語などもありますので、その辺りは検討させて下さい。色々な方に読んでいただくようにしたいと思います。

西山委員 多言語にするととなると翻訳が大変ですが、今広報が10か国語くらいやっていますが、それは翻訳アプリを使ってやっているのでしょうか。それとも、どこかへ委託をしてやっているのでしょうか。

事務局 自動翻訳を使っています。

西山委員 昔の自動翻訳は支離滅裂な訳され方もありましたが、今はきちんと翻訳されるならば、多言語翻訳をしてどんどん活用していただければと思います。その都度、出すたびにお金がかかるとなると大変です。無料の翻訳アプリで賄えるのであれば、そちらを活用していったほうがいいでしょうか。

事務局 オンライン翻訳の機能はどんどん進化しております。オンライン上で見たときに、国籍に関係なく何不自由にある程度見ることができるのではないかと思います。その辺りを踏まえ、対応を考えていきたいです。紙に印刷して配布するのではなく、市としてはオンライン上で見ていただくことを前提に、多言語化ができないかと思案しています。

富田委員長 ウェブに掲載し、翻訳機能を通して読んでいただくという考え方で良いでしょうか。

事務局	<p>そうです。PDF で出したとしても、翻訳機能が使えるかもしれないです。最近、はカメラで撮影しても翻訳してくれます。一方で難しい言い回しをどこまで上手く翻訳してくれるかという所はあるので、その辺りは研究させていただければと思います。現在は、外国語のパンフレット作成は考えておらず、ウェブに掲載し翻訳機能を通して読んでいただくことを想定しています。外国語の紙面でのパンフレット作製は検討中です。</p>
西山委員	<p>ホームページを作り、自動翻訳を通して多言語で見えていただいて、世界への PR に使えたら良いと思います。</p>
田中委員	<p>45 ページの「(11) 外国人児童生徒等の教育環境・受入れ体制の充実」の部分で「主な取組：外国人児童生徒等の就学支援、保護者向け文書の多言語化」とありますが、保護者の方と学校が会話をするときに通訳の方が行かれるような仕組みづくりを検討されると良いと思います。他の自治体の教育委員会で、子どもの仮入学のときはたくさんの説明があるときや学期末の懇談のときに通訳の方に来てもらえるよう予算組がされているので、保護者の方にも学校の状況や日本の学校システムを知ってもらおうと、子どもの学校生活の安定にも繋がると思っています。</p>
松田委員	<p>44 ページの「(10) 姉妹・友好都市や諸外国との交流」の部分ですが、宇部市だけではなくて山口県としてもやっていかなければならないと思います。多文化共生となると行政同士の交流ではなく、市民レベルの交流へと繋げる視点も入れた方が良いでしょう。45 ページの「外国人住民が、本市に長く住み続けたいと思えるよう、子どもたちが～」とありますが、これは日本人も含めてなのでしょう。というのは、子どものことを書いてありますが、文末に「子どもから高齢者まで誰もが豊かに安心して～」と記述があり、急に高齢者のことが書いてあるので趣旨が分かりません。「誰もが豊かに安心して暮らすことができる地域づくりを推進します」と記載がありますが、43 ページの「2 誰もが安心して生活することができる地域づくり」の基本方針との違いが分かり辛いです。</p>
事務局	<p>姉妹都市の交流ですが、行政レベルだけではなく、姉妹都市交流の発展した形として、45 ページの(2)に記載していますが、姉妹都市から語学留学として派生する形で派遣しようと思っています。行政だけでやり取りするわけではないです。文章の見せ方を変えようと思っています。もう一つ御指摘の、43 ページと 45 ページの文言が被っている部分と高齢者の部分ですが、こちらももう少し分かりやすく整理したいと思います。</p>
川崎委員	<p>45 ページですが、日本の子どもたちであれば就学前検診を受けていますが、外国人児童が日本の学校へ入学する際には就学前検診を受けることなく小学校や中学校へ入学してくるので、色々とか何か抱えている困難があるかもしれないということに対して、それを見つけることが後手後手になっているという現状があります。その辺りに対し、盛り込めるのであれば学校の中での支援や家庭の支援への着手が早くなるのではないかと思います。また、主な取組として青少年派遣と書いてあり大変素晴らしいと思いますが、非常に限られた人数の対象者になるのかと思います。その他多くの海外へ行くことはない宇部の子どもたちに何があるか、何らかの</p>

	ことをされるとはと思いますが、行く子どもだけではなく他の子どもたちへも何かあるということが盛り込まれていると良いなと思います。何か考えていますか。
事務局	オンライン交流はやっています。ただ、全体ではなく募集してある程度の枠がある中での話なので、どのように対応するのか書き方は難しいです。
川崎委員	宇部に住んでいる子どもたちが対象に入っているなど、そういったものが何か入っていると良いなと思います。
小寺委員	国際交流は各小学校で独自にやっているのではないのでしょうか。
原委員	国際交流に関する学習はやっています。
小寺委員	それをもう少し発展させるようなことはできますか。
川崎委員	報道などでも拝見しますが、見える所に来ても良いのではないかと思います。
事務局	各部局から国際多文化に関する取組を掘り起こしながら集め、文章化できるものは進めていきたいと思っています。
富田委員長	推進体制で部会を立ち上げることと、どのようなサイクルでやるのかは書いて下さい。ただ単に書いて何もやらないという計画もあるようなので、具体的にどうやっていくかを書き込んだ方が良いと思います。

#### (4) その他

##### － 事務局より説明（記録省略） －

富田委員長	今後のスケジュールについて説明をお願いします。
事務局	1月下旬から2月にかけてパブリックコメントをしたいと考えています。その後に素案として最終的なものにまとめたいと思います。素案自体は最終的には3月に計画をリリースしたいと思います。最終案ができ次第、第4回を開催し、最終的な議案をいただこうと思います。
富田委員長	パブリックコメントの前に、委員の皆様へ素案をメールして御意見をいただくようにして下さい。
キース委員	パブリックコメントは外国人からも取るのでしょうか。
事務局	そのつもりで考えています。
富田委員長	翻訳機能を使ってやり取りするのでしょうか。
事務局	そうです。
キース委員	バックトランスレーションを是非して下さい。日本語から英語に自動翻訳したものをまた日本語に自動翻訳した際に変な文章が見当たるので、そうやってチェックすると文章の解釈間違いはある程度修正できます。
川崎委員	良い翻訳に繋げるための基の日本語をいかに上手く使うかだと思います。バックトランスレーションをして日本語を調整すると、他の言語へ翻訳した際にも綺麗に文章化ができて割と上手くいくと思います。文章の複雑さや複文にせずに構成を上

手く作っておくことで、シンプルかつ内容が充実して伝わるような日本語の構成で作られるということです。

キース委員 | はい、具体的な日本語を使うと良いということです。

川崎委員 | やさしい日本語にすることが大事ですが、やさしい日本語を外国語に翻訳すると情報が非常に薄くなってしまいますので、気を付けた方が良いと思います。日本語で主述がしっかりと分かり構成がはっきりしているもので、一文の中でしっかりとトランスレーションができるものを作ると、最終的な案を出す際にもトランスレーションした後の日本語の質が担保できると思います。今後の宇部市の発信力が凄く向上すると思います。

西山委員 | 最終的な素案は3月にでき上がるということでしょうか。

富田委員長 | 今の所そのつもりです。

西山委員 | 新年度からはこの計画に基づいて事業展開がされるということでしょうか。

富田委員長 | 予算取りも部分的には今やっています。

西山委員 | 新年度予算にはこの考え方に基づいて、色々な事業展開がされると考えて良いのでしょうか。

富田委員長 | 全部いっぺんに予算取りができる訳ではありませんが、ある程度それを見据えて予算取りをしています。

### 3. 閉会

以上